

# 12月8日（1941年）の記憶

そして、戦争、平和、教育についての証言

~~~~~ 短歌集『ああ、少年』より抜粋 ~~~~~

日 沖 晃

〈 ♪ 15 助けて！ 先生 〉から

- 01 ただならぬ気配は何か 薄雪のプラットホームで脚を<sup>すく</sup>疎める  
02 十二月八日 駅頭のスピーカー 信じられぬこと放送してる  
03 「けさ未明」「アメリカ」「撃沈」「真珠湾」 幻覚ならば幻覚でいい  
04 確かなこと早く知りたい 急がせて脚急がせて学校に着く  
05 軍艦マーチ 軍艦マーチ 講堂は津波のような軍艦マーチ  
06 講堂のスピーカーだけが情報源 知りたいけれど知るのが怖い  
07 みな口をつぐんでるだけ 勇壮な軍艦マーチがなぜか虚ろに  
08 大戦果刻々報道されるのに 歓声あげる一人とてない  
09 何もかも毀れていってしまうのか 目の先暗い 闇より暗い  
10 冷静でいたい いつもと変わらない和田先生の授業のように  
11 十年を戦争の中で生きてきて その上未来をどうするという  
12 戦争に巻き込まれたくない そのことは誰にも言えぬ 言ってはならぬ  
13 戦争を負いつつ過ぎる三月に耳驚かす噂飛び込む  
14 大切な和田先生がいなくなる 夢だ 夢だよ 怖い夢だよ  
15 噂 噂 噂で終わってほしかった 和田先生が転勤される  
16 廊下まで漏れてたという口論の いつもと違う先生の声  
17 先生の反戦論は命がけ 校長室のその場が見える  
18 戦争に沸き立つ国を憂慮する先生 絶対国賊でないよね  
19 言葉には出せないけれど 先生の「自由」は決して間違っていない  
20 太陽がなくなるような衝撃に耐えかねている 助けて！ 先生

## 《参考》

### [1] 当時の「公の秩序」から

#### ♯10 男女席を同じゅうせず

- 01 「男女席を同じゅうせず」が掟にて 交わす言葉も奪われていた
- 02 話すことも向き合うこともないままに 名だけ知ってる少年と少女
- 03 向こう金魚 こっちヘラブナ 別々の水槽の中で六年生きる
- 04 男同士しか遊べない不自由を 大人の人たちどう思ってる？
- 05 すぐ下に妹二人 川一つ隔てたような距離感でいる
- 06 近いのに遠くかすんだ存在で それでいいのか 男子と女子は

※ 「男女席を同じゅうせず」は「徴兵制」への抵抗排除

### [2] 戦争はいつも身近にあった。

- 07 わがままは最も得意とするところ 「前へならえ」はいやだからいや

※ 「前へならえ」は軍隊用語。軍隊での訓練様式が学校教育に持ちこまれる。

- 08 軍鑑遊戯 軍人将棋 「軍」という字のつく遊びで教育される
- 09 <sup>どんがい</sup>虎杖の茂みに潜み息止めて 敵艦を待つ こっち水雷
- 10 ごっこ ごっこ ごっこは魚のはずなのに 侍ごっこ 兵隊ごっこ
- 11 「番号！」で12345の次「ドク」 6と言えないジャンボなサダオ
- 12 <sup>さんぱち</sup>三八式歩兵銃肩に歩調取る 少し大人の兵隊ごっこ
- 13 縛られることが嫌いなはずなのに緩んだゲートル巻き直してる
- 14 <sup>た</sup>誰がために振る旗 先輩いくたりの遺したものに心が揺れる
- 15 さざ波の言葉優しい湾の奥 悲しいものは渚に埋める
- 16 みんなみの海に向かってハモニカで吹くのは悲しみそれとも怒り
- 17 獏よ来い 津波のように襲い来る不安を食べに獏よ来てくれ

### [3] 父の抵抗

※ 1916（大正5）年、庁立函館中学校（函中）の体操科に軍事教練がもたらされようとしていた。

- 18 学校に軍の足音忍び寄る危機に抗<sup>あらが</sup>う中学四年
- 19 逸馬らと打った捨て身のストライキ 胸に覚悟の火の玉抱いて
- 20 四年一組級長だった父だから 心を決めて田舎に戻る